



平城宮跡第一次大極殿復原完成予想図(合成写真:奈良文化財研究所提供)

# 総説

# 総 説

奈良県の沿革	1
県政 奈良県政年表	6
市町村変遷表	8
行政区画	12
位置、面積	12
地 形	13
地質、気象	14
人 口	15
産 業	17
農 業	17
林 業	17
工 業	18
商 業	19
文化・観光	21
主要山岳一覧表	23
主要河川一覧表	24

## 奈良県の沿革

### 大和は国のまほろば

紀元前3世紀頃、日本列島に稲作がもたらされると奈良盆地は豊かな米作地帯となりました。大陸の高度の文化はこの地に開花し、大和の地は我が国の政治・文化の中心地として中国にならい、都城藤原京（694年）・平城京（710年）が造られ、飛鳥・白鳳・天平の輝かしい文化が醸成されました。

その後、都が平安京に移ったため、一時平城の都はさびれましたが、やがて社寺中心に甦り、鎌倉時代には、大和の国は興福寺・春日大社の荘園で占められるまでになりました。

戦国時代、この大和の地も戦乱が絶えることなく、幾多の興亡が繰り返されましたが、その後織田信長の庇護のもとにあった筒井氏が大和を統一しました。

江戸時代には、綿花・菜種・小豆などの商品作物や、三輪そうめん・吉野葛・宇陀紙・奈良晒・大和緋・吉野杉などの特産品が、隣接する大消費地大阪・京都に運ばれ大和に富をもたらしました。

### 明治20年に現在の奈良県が誕生

明治維新を迎えると、慶応4年1月に大和鎮台が設置され、以後、行政区画の改廃が繰り返されましたが、明治4年には大和国を統一した奈良県が成立しました。しかし、明治9年堺県に合併、さらに明治14年には大阪府に合併とめまぐるしく変化し、その中で、大和の人々は奈良県の再設置を粘り強く求めつづけました。ついに、明治20年11月4日、奈

良県の誕生を迎えることができました。明治21年1月9日には第1回奈良県議会在東大寺大仏殿回廊において開かれています。

明治22年4月1日の町村制施行当時、10町142村2組合村で、人口は50万人ほどでした。その後県勢の発展にともない、昭和30年前後に市町村合併が促進され、現在は、10市20町17村で、人口は約144万人となっています。

### 環境との調和をはかりながら

奈良県は、気候・風土に恵まれているものの、海がなく河川に乏しいという条件もあって、明治以降も農業・林業が産業の中心でしたが、昭和38年から始まった奈良県新総合開発計画をはじめとする県勢の振興計画による産業基盤の整備や公害のない工場誘致等により急速に工業化・都市化が進みました。人口も昭和40年代初めから50年代中ごろにかけて大都市大阪等のベッドタウンとして急増してきましたが最近はやや伸び率が鈍化しています。しかし、依然として、人口増加率は全国でも上位にあり、大和平野地域に人口が集中する一方、その他の地域では過疎化、高齢化が一段と進みました。そこで、美しい自然環境のもとで、健康で豊かな家庭生活を築きつつ平和で楽しい社会生活を共にし、世界各国とも直結した奈良県づくりの指針として昭和59年に「奈良県長期基本構想」を策定しました。さらに、その後の社会経済情勢の変化、構想・計画段階であった事業の具体化も進んだため「奈良県長期基本構想（修正）」を策定しました。そして、平成7年には社会の新たな潮流や本県の特性・課題を踏まえ、「奈良県新総合計画」を策定しました。

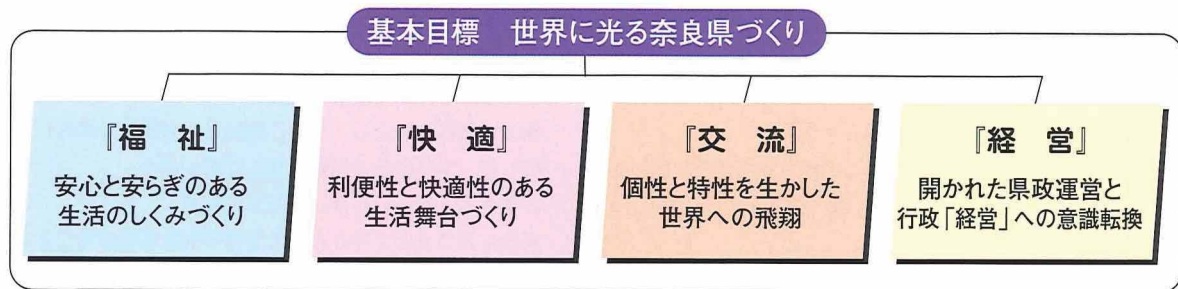
## 新しい世紀を迎えて

本県では、21世紀幕開けの平成13年度からの5か年の県政を推進するための運営方針となる「奈良県新総合計画後期実施計画」を策定しました。

この計画では、子育て、健康、教育など県民共通の身近な課題を重視し、また、急速に進展・変化する様々な社会・経済情勢に先見性をもって的確に対応しつつ、本県の魅力をさらに高めることをめざして、主導的・重点的に取り組む14のリーディングプランを提示するとともに、数多くの施策・事業を県政の各分野にわたって具体的に示しています。

これらの諸施策を積極的に推進し、今後とも本県の特徴を最大限に生かし、新しい時代にふさわしい個性と魅力に満ち、内外から注目されるような存在感のある「世界に光る奈良県づくり」をめざします。

## 「世界に光る奈良県づくり」のリーディング(主導的)プランの概要



## 福 社

### ○「なら」悠々子育てプラン

保育、雇用、保健医療、教育、住環境など総合的な少子化対策を推進します。

### ○健康いきいき長寿社会の推進

高齢者や障害者がいきいきと生きがいを持って積極的に社会参加し、安心して暮らせる社会を実現する施策を推進します。

### ○教育改革の推進

豊かな人間性と創造力をもつ21世紀を担う子どもを育てていくため、学校、家庭、地域社会が連携・協力して取り組む施策を展開します。

### ○協働する社会環境の形成

人権が尊重され、男女がともに参画できる社会づくりを推進するとともに、地域社会におけるボランティア活動などを推進します。

### ○暮らしに信頼を築く安全・安心プラン

食品の安全性の確保や主体的な消費生活を営むための支援、災害に強い県土づくりと災害発生時の安全・安心の確保を図ります。



県立医科大学附属病院  
第二本館完成予想図



子育てサークル



新県立図書館完成予想図

## 快 適

### ○明日の奈良を築く交通ネットワークの形成

「なら・半日交通圏道路網構想」の実現など、交通ネットワークの整備を推進します。

### ○新たな芽を伸ばす産業の育成

新しい価値に着目し、IT、環境などの新たな時代に対応して、本県産業の発展の芽を育成します。

### ○ふるさと「なら」ルネッサンスの展開

新たにふるさとを感じられる文化の創造を進めることにより、新しいふるさと「なら」を再構築していきます。

### ○ごみゼロ社会への環境づくり

地域から地球的規模までの様々な環境問題が深刻化するなか、資源循環型社会の実現に向けた総合的な施策を展開します。

### ○清らかで豊かな水と共生する生活基盤づくり

水資源の開発、水道の整備、水質の浄化、親水空間の整備などを行い、豊かで清らかな水の恵みを楽しむ水環境社会を創造します。



工事の進む京奈和自動車道（大和区間） 山梨リニア実験線

## 交流

### ○歴史文化首都「なら」の創生

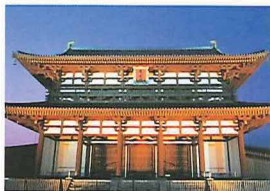
多彩な交流活動を通じて国内外に貢献するとともに、多くの人々が「関西の憩いのオアシス」として感じ、訪れ、集う世界レベルの交流拠点となっている奈良県～『歴史文化首都「なら」』への創造をめざします。

### ○「IT戦略」推進プラン

情報通信技術を積極的に活用し、県民サービスの向上、世界との交流及び産業の振興など、県民がIT革命の恩恵を最大限に享受できる施策を展開します。

### ○中山間地域の新たな魅力の創造

豊かな自然や歴史文化資源の活用、地域間交流を進め、地域の新たな魅力の創造に取り組みます。



平城宮・朱雀門



熊野参詣道・小辺路（十津川村）

## 経営

### ○開かれた行政「経営」の推進

「開かれた県政運営」の推進や、行政「執行」から行政「経営」への意識転換などを進めるため、新しい行政システムの構築に取り組みます。

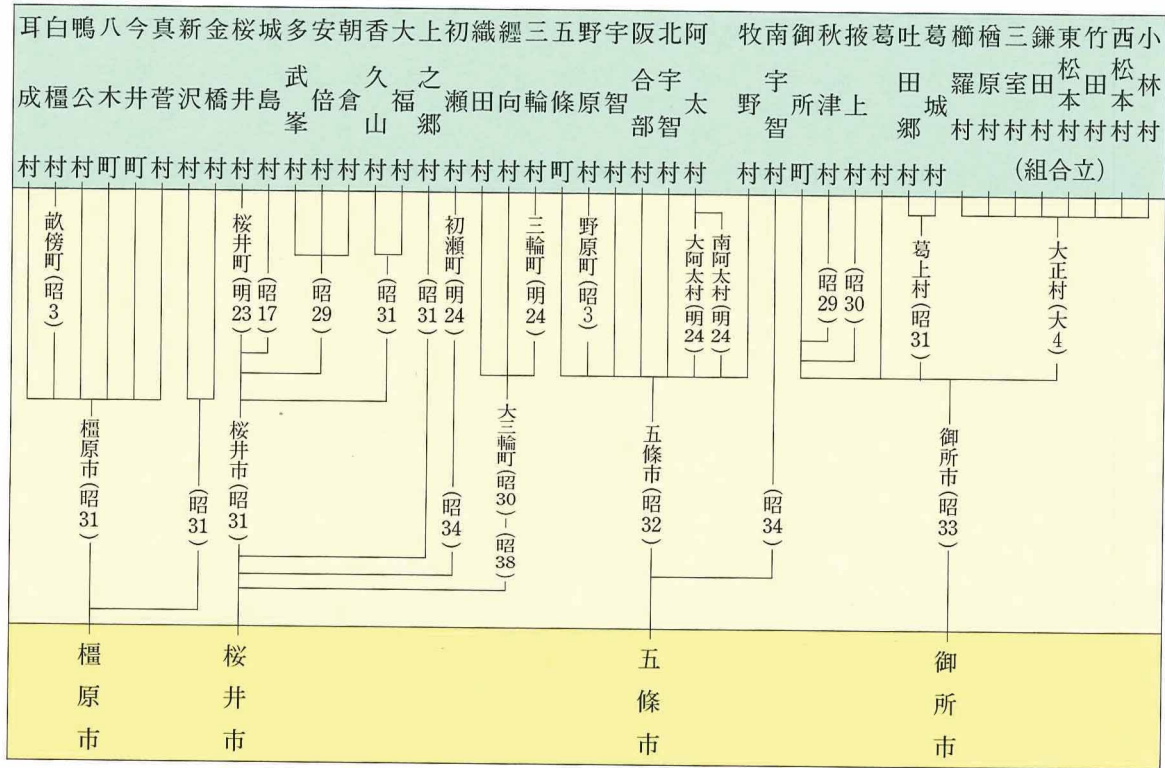
西暦	年 月 日	事 項
1868年	慶応4年1月21日 5月19日 7月29日 明治元年9月8日	大和鎮台が設置され、のち2月1日大和国鎮撫総督府と改称した。 奈良県を置き（知事春日仲襄）これを管領する。 奈良県は奈良府と改称した。 明治と改元。
1869年	2年6月17日 ~24日 7月17日	各藩は版籍を奉還し、それぞれ旧藩を県とし知藩事を置く。（郡山県一柳沢氏15.1万石、高取県一植村氏2.5万石、柳本県・芝村県一織田氏各1万石、橿羅県一永井氏1万石、小泉県一片桐氏1.1万石、柳生県一柳生氏1万石、田原本県一平野氏1万石の8県） 奈良府は奈良県と改称した。
1870年	3年2月27日	奈良県の一部（旧宇智、吉野郡）を分け五條県を置く。
1871年	4年7月14日  11月22日	廃藩置県により大和国内に奈良県、五條県のほか、郡山県、高取県、小泉県、柳生県、田原本県、柳本県、芝村県、橿羅県、和歌山県、津県、久居県、壬生県、大多喜県が誕生する。 奈良・五條を含む15県を廃止し、奈良県を設置、県内を添上・添下・平群・山辺・式上・式下・十市・宇陀・高市・広瀬・葛上・葛下・忍海・宇智・吉野の15郡に分け統轄（県令四条隆平）する。
1876年	9年4月18日	堺県に合併される。
1881年	14年2月7日 11月29日	堺県が大府府に合併される。大和15郡を4連合郡役所で所管。 大和国一覽表によれば15郡261町1,333村で戸数99,005戸、人口476,709人となっている。
1887年	20年11月4日 12月1日 27日	大阪府から分離して奈良県が再設置された。 奈良県開庁。（知事に税所篤） 第1回奈良県議会議員35名の当選告示。
1888年	21年1月9日	第1回奈良県議会が東大寺大仏殿回廊において開かれた。
1889年	22年4月1日	町村制が施行された。10町142村2組合村。
1895年	28年12月15日	県庁舎が落成し移庁式を奉行する。
1897年	30年8月1日	郡制の実施、添下・平群を合わせて生駒郡、式上・式下・十市を合わせて磯城郡、広瀬・葛下を合わせて北葛城郡、葛上・忍海を合わせて南葛城郡とし、添上郡、山辺郡、宇陀郡、高市郡、宇智郡、吉野郡を合わせて10郡となり、各郡に郡役所を設置する。



西 暦	年 月 日	事 項
1898年	明治31年 2月 1日	添上郡奈良町に市制を施行する。
1926年	大正15年 7月 1日	郡役所廃止。
1942年	昭和17年 7月 1日	県内7ヶ所に地方事務所設置。
1947年	22年 4月 5日	初の公選知事選挙が行われた。
1955年	30年 9月17日	地方事務所を廃止。
1956年	31年10月	吉野熊野特定地域総合開発計画が閣議決定された。
1963年	38年11月	奈良県新総合開発計画を策定した。
1965年	40年 3月18日	新県庁舎竣工。
1968年	43年 3月	第2次奈良県新総合開発計画を策定した。
1973年	48年 3月	奈良県長期基本計画（第3次）を策定した。
1978年	53年 3月	奈良県長期基本計画（第3次）〔修正計画〕を策定した。
1984年	59年 4月	奈良県長期基本構想を策定した。
	9・10月	わかくさ国体を開催した。
1987年	62年11月 4日	奈良県置県100年を迎えた。
	12月 1日	第200回奈良県議会を開催した。
1988年	63年 3月28日	関西文化学術研究都市（奈良県域）の建設に関する計画が内閣総理大臣の承認を得た。
	4～10月	なら・シルクロード博を開催した。
1991年	平成 3年10月 1日	香芝町の市制施行により、10市20町17村となる。
1992年	4年 2月	奈良県長期基本構想（修正）を策定した。
1995年	7年 4月	奈良県新総合計画を策定した。
	9月	第8回全国スポーツ・レクリエーション祭を開催した。
1996年	7月	県分庁舎竣工。
	8月	情報公開制度がスタートした。
1998年	10年 4月	朱雀門・東院庭園復元記念事業「平城京'98」を開催した。
1999年	11年 4月	単一農業協同組合が誕生した。
2000年	12年10月	個人情報公開制度がスタートした。
2001年	13年 3月	奈良県新総合計画後期実施計画を策定した。

# 市町村変遷表

明治22年	奈良 佐保 都跡 大安市 東城市 平城市 辰ヶ谷 五ヶ解 帯解村(添上郡) 明治村(添上郡) 富雄 伏見 田原 柳生 大柳生 東里村(添上郡) 狭川 高田 土庫村(組合立) 松塚村 浮孔 磐園 陵西 天満 郡山 筒井 平和 治道 矢田 平端 本田 片桐 櫟本 二階 朝和 山辺 福住 柳本
変遷	<p>                     奈良市(明31) (大12) (昭15) (昭26) 大和高田市(昭23) 大和郡山市(昭29) 天理市(昭29)                 </p>
現在	奈良市 大和高田市 大和郡山市 天理市



北	北	五	二	下	志	月	針	都	東	波	豐	明	三	竜	法	富	安	川	三	田	平	川	都	多	松	政	神	宇	宇	榛	伊	内	室	三	東	曾	御	高	越	
生	生	位	上	田	都	ヶ	介	山	多	原	治	郷	田	隆	郷	塔	西	宅	原	野	東	山	始	戸	賀	那	牧	生	本	里	山	爾	杖	取	智					
村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村
生駒町 (大10)	(昭30)	(昭32)	香芝町(昭31)	香芝市(平3)	月ヶ瀬村(昭43)	都祁村(昭30)	都祁村(平3)	山添村(昭31)	平群村(明29)	平群町(昭46)	三郷町(昭41)	竜田町(明25)	斑鳩町(昭22)	安堵町(昭61)	川西町(昭50)	三宅町(昭49)	田原本町(昭31)	大宇陀町(昭17)	(上竜門村)	宇太町(昭10)	菟田野町(昭31)	榛原町(明26)	(昭29)	(昭30)	室生村(昭30)	高取町(明24)	高取町(昭29)													
生駒市			香芝市	月ヶ瀬村	都祁村	山添村	平群町	三郷町	斑鳩町	安堵町	川西町	三宅町	田原本町	大宇陀町	菟田野町	榛原町	室生村	曾爾村	御杖村	高取町																				

